

警察の校内巡回容認

98.3.17

朝日新聞

中教審「安全、最も大事」
提言へ

中央教育審議会（有馬朗人会長）は十六日の総会で、三月末に町村信孝文相に提出する中間報告案を議論した。「幼児期からの心の教育」については、相次ぐ少年によるナイフ殺傷事件に対応するため、学校で対処できない暴力があった場合には、学校長の判断で警察に通報するとともに、必要ならば警察の校内巡回活動も要請すべきだ、と提言する方針を固めた。学校が警察との連携に消極的な現状を打破すべきだとの強い姿勢を示したのだが、「对症下药的で『心の教育』としてふさわしくない」などと教育関係者から批判を招きそうだ。

有馬会長は審議会後の会見で「一番大事なのは日本の教育を安全にすること。とにかく何らかの形で育」の中間報告では、教師

抑えなくてはならない」として、警察との連携の必要性を強調した。「心の教育」の中間報告では、教師ものなど、学校での対応が

困難な場合が少なくない」と指摘した上で、「校内の秩序を保つ上で必要な場合には警察活動を仰ぐことなども必要（しゅんじゅん）すべきではない」とする方針。

十六日の論議では、学校と警察との連携について、委員から「学校も社会の一部である以上当たり前だ」「教師が生徒に刺されたり、殴られたりすることが

頻繁に起ることを絶対に許してはいけない」などと

支持する意見が相次いだという。一方で、「指導を十分にしないまま、安易に警察に頼ることが日常化して

しまつ」との慎重論もあった。